丹波新聞　2011年(平成23年)11月6日(日曜日)　第7154号

木材を燃料に

NPOが研究受託

伐採から配達まで

仕組み作り副業化めざす

森林資源の有効活用を提案・実践しているNPO法人サウンドウッズ（氷上町賀茂、安田哲代表理事）は丹波市の委託を受け、森林所有者や自治会、ボランティアら伐り出した山の木を、ボイラーの燃料や薪、木工品の材料とするための調査・取り組み作りを研究している。薪やチップボイラー、薪ストーブの普及とあわせ、それらの設置場所に燃料として配達するまでの流れを想定している。同法人は、「取り組まれる体が家の後に」（お酒を）ちょっと一杯はけるくらいのもうけが出て、副業として成り立つようになれば、荒れた山の整備にもつながる」と話している。（門田宏生）

市は昨年度、木質バイオマスエネルギー（以下、バイオマスエネルギー）事業を推進すべき重点プロジェクトの一つとして位置づけた「市新エネルギー会議」を発足。市内の公共施設などに設置する薪ボイラーの燃料を確保するため、バイオマスエネルギー事業の可能性を議論してきた。

これを受け、市内各地で、同法人に仕組みづくりの研究を委託。今年度下二井庄の「おおじどもの森」で、この夏、「ヒジョンに治っていた」国の補助制度を含め、ボイラー導入ら10人が参加した。

これまでバイオマスエネルギーの可能性が議論されながらも、山から木材を運び出すのにコストが高くなることがネックになっていたが、全国各地で手軽に運び出す研究が進んでいるという。

同法人も動力のエンジンが持ち運びでき、ローブにくくりつけて山から木材を降ろす「ローブウインチ」を購入、春日町内に設置した。

同法人の木材コーディネーター、能口秀一さんは、「木工製品の材料に使える」と話している。

また、森林組合などが行う切り捨て間伐をタイアップし、搬出作業を同検討課題。

仕組みづくりを一緒に考え、「市民、議員、県の議員、行政、地元の人が集まって、チェックしていくことが大切だ」と話している。

「地域資源を活かした元気な地域づくり」を目指す。

市長らが企業誘致、雇用対策、道路整備、山林整備、固定資産税の課税などを学ぶ。

備が課題になっている自治会などがあれば、木を切り出してお金にかえる仕組みづくりを考えたい」と話している。

バイオマス活用「支援していく」

井戸知事答弁

井戸敏三知事と丹波地域の市長らが意見交換

備、木質バイオマスエネルギーの活用など丹波地域や、安全な作業方法の普及などが行われれば、木を使う人が、「林業、農業、商工業などが連携して、雇用を生み出せる」と話している。

「木工製品の材料に使える」と話している。

丹波地域づくり懇話会（篠山市民センター）で、活用エネルギーの可能性を議論した。

「地域資源を活かした元気な地域づくり」を目指す。

市長らが企業誘致、雇用対策、道路整備、山林整備、固定資産税の課税などを学ぶ。

備、木質バイオマスエネルギーの活用など丹波地域

木材を運び出すロープウインチの実習を行う住民ら＝春日町下三井庄で

丹波新聞
1924年創刊
〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原201
丹波新聞社
TEL (0795) 72-0539㊊
FAX (0795) 72-1956
URL http://tanba.jp
E-mail tanba@tanba.jp
篠山支局
〒669-2323
兵庫県篠山市立町95-2
TEL (079) 552-7105
FAX (079) 552-7106
毎週日曜日・木曜日発行
月ぎめ購読料1,200円(税込)

小鼓～今年の一番搾り～
初手しぼり
11月19日(土)・27日(日)
春日・道の駅にて直売会
小林酒造　賀茂小酒造場
TEL(0795)85-0331㈹
http://www.kotsuzumi.co.jp

本日8ページ

8 スズキ中兵庫販売（広告）
7 今週のテレビ番組
6 イベント情報・読者の文芸
5 「私のみた篠山」写真家大石芳野さん撮影

身近なニュース提供、購読の申し込み、広告のご用命など、お気軽にご連絡ください。